

【第8回釧路生命倫理フォーラム】タイムテーブル (8/16再修正・確定版)

時下、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、下記の要領にて第8回釧路生命倫理フォーラムを開催いたしますので御案内申し上げます。

◆会場：~~ゲストハウス灯(ともしび)・会議室~~

~~北海道釧路市米町2丁目9-5 (<https://www.verity.mk.com/about>)~~

現地会場を変更いたします。詳細は下記宛先へお問い合わせください。

(ZOOM オンライン配信あり、事前申込必要)

◆期間：2021年8月27日(金)・28日(土)・29日(日)

◆対象者：生命倫理・医療倫理に興味のある方

◆参加申込先：<https://forms.gle/EVV9FBhf7tdYNcE28>

◆受講料：無料(講師はすべてボランティア)

◆主催：釧路生命倫理フォーラム実行委員会

◆内容についての問い合わせ先：宍戸圭介 Tel:086-230-6106, k-shishido@po.osu.ac.jp

(平成31(令和元)年度科学研究費基金基盤研究(C)「新しい診療拒否」に関する学際的研究19K01439)

◆プログラム Program

●8月27日(金)

科研研究会

(宍戸科研「新しい診療拒否」主催<2021年度第1回>)

企画・オーガナイザー：宍戸圭介(岡山商科大学法学部教授)

13:30-15:20

*学会公募シンポジウム「現代臓器移植のリアリティ」に向けた準備会議<クローズド>

参加者：栗屋剛(岡山商科大学法学部教授)、加藤穰(滋賀医科大学医学部教授)、張瑞輝(名古屋経済大学法学部准教授)ほか

15:40-17:00

*研究報告<公開>

「緊急医療における近親者の同意と診療拒否の限界～中国民法典1220条を手掛かりとして～」

張瑞輝(名古屋経済大学法学部准教授)

●8月28日(土)

10:00-11:30

科研研究会

(加藤科研「非標準的治療等の先行の検討を通じた多文化にセンシティブなインタラクションの支援」主催)

企画・オーガナイザー：加藤穰(滋賀医科大学医学部教授)

*科研キックオフ・ミーティング<クローズド>

[個別報告] 司会：宍戸圭介（岡山商科大学法学部教授） 〈公開〉

（中塚科研「配偶子凍結保存の増加と「ライフプラン」「ジェンダー観」の変化に関する学際的研究」に係る研究報告）

11:30-12:00

(1) 「「卵子提供に対する日中越韓4か国の大学生の意識」—中国の北京と内モンゴルの比較—」
于麗玲（岡山大学大学院保健学研究科非常勤研究員）

12:00-12:30

(2) 「LGBT 当事者の家族形成への意識：生殖医療を中心に」
中塚幹也（岡山大学大学院保健学研究科・岡山大学病院リプロダクションセンター教授）

14:00-17:00

科研シンポジウム「新型コロナウイルス感染症拡大下における、高齢者の状況」 〈公開〉

（船木科研「新型コロナウイルス感染症拡大下における、独居高齢者の孤立化に関する実証的研究」主催）

趣旨

超高齢社会を迎える日本において、人とのつながりにより高齢者の社会的孤立化を防ぐさまざまな方策が講じられてきた。しかし、くしくも新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会はこうした人とのつながりを避けるように促された。まさに高齢者支援のための逆ベクトルの方向に社会は動いた。そこで、新型コロナウイルスの感染拡大下における高齢者の置かれている状況が問題となる。本シンポジウムは、とくに感染症拡大下における独居高齢者の実情と課題を知らせるための機会になることが期待される。

オーガナイザー：船木祝（札幌医科大学医療人材育成センター准教授）

演者：船木祝「新型コロナウイルス感染症拡大下における、高齢者の孤独」

竹内美妃（キャンパス釧路代表）

「コロナ禍での酪農地域における高齢者との関わり—JAはまなかデイサロン活動を通じて—」

宮嶋俊一（北海道大学大学院文学研究科准教授）

「コロナ禍における宗教の意義と限界—北海道における葬送儀礼の変容を中心に—」

森満（北海道千歳リハビリテーション大学学長）

「コロナ禍での生活習慣などの変化と健康悪化リスクとの関連性における社会的資本と自己制御感の影響」

粟屋剛（岡山商科大学副学長）

「高齢者のワクチン優先接種は「本音」か？」

●8月29日(日)

10:00-12:00

科研ワークショップ **〈公開〉**

(丸山科研「医学研究の適正実施の確保・推進のための比較法的・実証的研究」主催)
司会：栗屋剛 (岡山商科大学法学部教授)

「生命科学・医学系指針について」

丸山英二 (神戸大学法学研究科名誉教授)

コメンテーター：①倉持武 (元松本歯科大学教授)、②鶴飼万貴子 (白水法律事務所)
質疑応答・総合討論

13:30-17:00

「第三者が関与する生殖とセクシュアリティを巡る RTD—子どもがいないことは悲しむべきことなのか? 真の多様性を考える—」入澤科研&稲垣科研共同 RTD **〈公開〉**

(入澤科研「不妊患者のプライバシーと子の出自を知る権利の在り方—真実告知体制の構築—」及び稲垣科研「LGBTQ の人々の互助関係の研究—超高齢社会のコミュニティ形成の一モデルとして」主催)

-- RTD の概要 --

日本は世界有数の不妊治療大国であり、体外受精の技術が進んだ現代社会においては、生殖ツーリズムや配偶子提供型生殖補助医療 (DC) の普及により、「出自を知る権利」を初めとする様々な法的・倫理的課題が生じている。2020 年 12 月に成立した「生殖補助医療の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律」では、不妊夫婦の DC の利用を踏まえた条項が作成された。しかし、日本産科婦人科学会は DC をどのような形態で医療として認めるかの声明を出しておらず、また本法ではシングルやセクシャル・マイノリティの DC の利用は想定されていない。その一方で、国内で DC が広く行われることを期待する市民の声や、国内初の民間精子バンクの立ち上げの動きがある。

「子どもを欲しい」という気持ちは、婚姻形態やセクシュアリティに関わらず、誰でも抱き得る願望であり、DC の利用は不妊夫婦だけではなく、セクシュアル・マイノリティやシングルにとっても「子どもをもつ」というライフプランを可能にした。そして現代社会では、子の養育を前提とせず、「子どもを持つ手助け」のみを行う形で、SNS 等を通じてドナー活動を行っている人も多数存在し、「家族=戸籍に記されたコミュニティ」という概念が覆されようとしている。

このような社会状況から、メディアは「生殖の自己決定権は多様になった」、「セクシュアル・マイノリティが子を持つ時代になった」等と評価するが、それは果たして正しいのであろうか。メディアを通じたリアルでは必ず当事者の声も編集され、ある属性に属する特定の人物の語りや、「その属性全体の声」のように扱われる傾向もある。たとえば、不妊や子どもがいない人生は「悲しむべきもの」と語られることが多いが、それは万人に当てはまるのだろうか。出自を知る権利を巡る議論では、AID 児の声ばかりが扱われるが、なぜ「親」は当事者として扱われないのだろうか。AID 児の親の役割は告知までなのだろうか。SNS ドナーを巡る問題では、女性が被害者として語られることが多々あるが、ドナーは加害者にしかなり得ないのだろうか。

本 RTD では、性カウンセリングで見受けられるセクシュアリティを巡るジレンマ、SNS を通じて精子提供を行っている個人ドナーの調査報告、AID で子どもを授かった夫婦のドナーに対する想い、LGBTQ の拳児状況のリアル、個人の家族形成に関してのナラティブを通じて、現代社会における「子」の意義と家族形成における真の多様性を考察する。

企画・司会：入澤仁美（順天堂大学非常勤助教）

話題提供：

(1) 「レシピエント(親)は配偶子ドナーの情報をどこまで得るべきか」

三浦隆・喜美子夫妻（仮名、AID で子供を授かった夫婦）

(2) 「LGBTQ の家族形成の現状とこれから」

長村さと子（LGBTQ 子供のいる未来を 一般社団法人こどもまっふ代表理事）

(3) 「心理支援の現場にみられる異性愛主義的社会的問題点—性相談および青年期の臨床を中心に」

水野礼（名古屋市立大学大学院人間文化研究科研究員）

(4) 「国内精子ドナーの胸のうち—クライアントへの思い、精子提供で生まれた子どもへの思い—」

新田あゆみ（上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻博士後期課程）

(5) 「若年層異性愛者の男性の『私』が、こどもについてどう考えるか」

今福亮（名古屋大学大学院 人文科学研究科博士後期課程）

(6) 「ART(生殖補助技術)利用における多元主義から考える、社会における子どもの意義の検討」

村岡潔（西本願寺あそか診療所所長、岡山商科大学客員教授）

コメンテーター：稲垣恵一（日本赤十字豊田看護大学非常勤研究員）

質疑応答・総合討論